ごあいさつ

足羽福祉会 理事長
高村 昌裕

今年度もフレッシュな新任職員を迎え、各事業所がそれぞれの目標に向かって事業をスタートさせています。

さて、私たち足羽福祉会は「社会福祉法人」という公益性の高い特別な法人として、さまざまな福祉のニーズに応えながら今日に至っておりますが、近年、この「社会福祉法人の在り方」について、さまざまな論議が起きています。

もともと21世紀に入り、社会福祉基礎構造改革のもと、福祉分野に株式会社やNPO法人が参入を始めると、一方では補助金や税の取扱いで「不公平である」という批判が出るようになりました。近年はそれに加え、社会福祉法人が利益を貯めこんでいて、新たな社会問題に積極的に対応していない、また社会福祉法人がどういった存在なのか、財務状況も含め情報開示がされていないという意見まで出ています。

こうした意見を前に、謙虚に自ら歩んできた道を振り返ることが肝要であることと同時に、やはり我々がとるべきは、常に利用される方の立場に立ち、ご家族や地域社会の役に立てるよう一生懸命に考え、行動することだと考えています。

平成25年度においても、法人が事業を行うそれぞれの地域（酒生地区、和田地区、啓蒙地区、上文殊地区、木田地区など）で、清掃奉仕活動や防災訓練、お祭りへの参加、花壇作り、放課後学童の預かり、マラソン大会の開催など、福祉事業以外にも地域社会とのつながりを求めた自主的な活動を展開しました。障害者支援施設では、災害時に同じ集落の高齢者や住民の方々の避難受け入れをしてほしいという要望を受け、そのためにも普段からの交流を積極的にしたいとの声をいただきました。

私たちの仕事は、利用される保育園児や障がいのあるお子さん、成人の方、また高齢で介護を必要とされる方への直接的な行為として主に捉えられていますが、決して地域社会と隔絶した、自己完結した福祉を目指すのでなく、社会の中で助け、また助けられる「相互扶助」の関係を築き、積み上げていく仕事でもあります。

一方で、私たちが行っているさまざまな取り組みについて、もっと社会一般の方々に知っていただく努力も必要です。足羽福祉会では、福祉サービス第三者評価や苦情解決、サービス実践報告会など、よりよい福祉を目指すための取り組みや財務諸表の公表といった情報公開を、広報誌やホームページ、セミナーなどさまざまな媒体を使って積極的に行っています。

私たちが目指す「赤ちゃんからお年寄りまで、障がいの有無にかかわらず安心して暮らせる共生社会の実現」のためにも、私たちは時代の社会ニーズに応えるべき社会福祉法人の存在意義を自覚しながら、柔軟な発想で、人づくり、地域づくりに参画していきます。職員一丸となって歩みを止めることなく進めてまいりますので、何卒ご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。